

社会福祉法人 東陽会

令和6年度事業報告書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

基本方針

介護保険法下における介護老人施設として、要介護者の心身の状況等に応じて適切な介護福祉施設サービスを提供するとともに、自らその提供するサービスの質の評価を行うことにより、常にサービスを受ける立場に立った施設介護事業を実施します。

サービスの提供においては、施設サービス計画(ケアプラン)及び通所介護サービス計画に基づき、介護、相談及び援助、機能訓練、健康管理を行い、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう支援します。

施設の運営に当たっては、入居者の立場に立った「自立支援」を中心としたサービスを提供し、「安心・安全」、「快適」、「思いやり」のある施設を目指します。

本事業は平成23年6月1日より地域密着型の特別養護老人ホーム(定員29名)、ショートステイ(定員10名)、デイサービス(定員30名)、居宅介護支援事業所をスタートしており、ご利用者様には自分らしい生活を実現することはもとより、施設内だけではなく地域社会の一員であることを認識しながら生活頂けるよう、地域活動や地域交流支援等、積極的な働きかけを行う事を提唱し、「生きがいある生活の創造」を目指しながら支援させて頂いております。

また快適な暮らしや質の高い生活が提供できるよう、科学的介護理論・実践について取り組んでおります。

■ 地域密着型特別養護老人ホーム事業

【入居者の状況について】(R7年3月31日現在)

□入所定員29名 (男5名・女24名)

□平均介護度: 3.96

□年齢内訳: ・最高年齢: 99歳(女)3名 最少年齢: 72歳(男) 平均年齢: 88歳

年齢別	人数	年齢別	人数
70～74歳	1	85～89歳	9
75～79歳	3	90～94歳	4
80～84歳	4	95～99歳	8

【入退居状況について】

□年間新入所退所者数:

令和6年度(14名) ※令和5年度(13名) ※前年比(+1名)

□入所受け入れ先：

介護老人保健施設（5名） ・ 協力医療機関（3名） ・ 在宅（5名） ・ 小規模多機能（1名）

□退居内訳：

協力医療機関入院（14名） ※医療機関入院中の死亡（5名） 入院退居（9名）

【月間入院者数について】

年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6年	2	1	1	1	4	2	2	1	1	2	1	0
R5年	2	1	3	1	2	7	4	4	4	1	1	1

【空所日数について】 ※前年比 48 日（増）

年/月	入院空所	退院～新規	
R6年	266	82	348日
R5年	249	51	300日

【平均稼働率について】

令和6年度稼働率 84.1%（令和5年度稼働率 91.5%） 前年比 6.1%減

年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6年	95.4	95.7	96.6	94.3	89.8	90.3	90.7	92.2	92.2	87.3	95.9	96.6
R5年	95.6	94.1	89.3	88.3	89.3	85.2	88.9	96.4	94.2	93.5	90.3	93.4

1. 稼働率の向上及び介護保険事業の収入安定

目標稼働率97%には及ばず。月平均稼働率は、前年度を6.1%下回る、84.1%の結果であった。要因としては、コロナや体調不良による入院日数の増加。コロナ発症後は体調が回復されず入院。医療依存度が高く、施設への復帰が厳しく退所、死亡に繋がるケースが目立った。また、施設待機者不足は深刻な問題になっており、退所後の新入所者が決まらず、受け入れ迄の空所日数が増えたことも要因としてあげられる。現在、日常生活継続支援加算を算定中だが、算定要件（要介護4・5・認知症自立度Ⅲa以上）に該当する入所申し込み者が少なく、今後の加算算定は危うい状況で収入減少が予想される。当施設は、地域密着型の施設であるが、他町村枠の受け入れも視野に入れ検討が必要。今後も入院や退所後の空床日数を最小限に抑え、利用者様の適切な健康管理を行うとともに、収入安定に繋げて行く努力が求められる。

2. 職場環境の改善

令和6年4月より、旧式のケアコールから、スマートフォンに連動したケアコールを導入した。旧式のケアコールに比べ、他者の介護中であっても、その場で、コールがあった利用者との会話ができる。また、見守りセンサーと連動ができることで、利用者の安全と、職員の負担軽減にも繋がっている。同時に、見守りカメラ1台も導入。「カメラで撮られている」というイメージがあまり良くないかもしれないが、目的を明確にして活用していくことで、支援の手

助けをしてくれるツールである。家族の同意を得て設置を行い、体動があった場合に起動するプライベートモードに設定して使用中である。事故の状況において、経緯が不明の場合はすべてのリスクを洗い出す必要があるため、事故の経緯が分かり、ピンポイントに適切な対策をとることに役立っている。今後もメリットとデメリットをきちんと理解して、有効なツールとして導入していければと考える。

3. 業務の明確化と役割分担

令和6年度介護報酬改定により、新たに「生産性向上推進体制加算」が創設された。早速、生産性の向上への取り組みを開始した。新たに委員会を編成し、部署内の日常業務の中にあるムリ、ムダ、ムラの課題を抽出して、解消していく一連の取り組みに努めた。しかし、今年度は手探り状態で、上手く機能していない状況であった。引き続き、ケアを行う職員の意見を尊重し、必要に応じて利用者の安全並びに介護サービスの質の確保と職員の負担軽減を図る取り組みに向けた改善を図っていく。また、介護スタッフの介護負担軽減だけが目的ではなく、チーム環境や育成の部分にも力を入れ問題解決に向けた取り組みを目指す。

4. 記録計画の様式の工夫

現場の記録について、カナミックへの入力以外に、未だ、手書きによる申し送りの記入が行われている。二度手間を招いているという声もありながら、改善への取り組みには至っていない。LIFEのデータ入力については、役割分担の体制を見直し計画的に実施。カナミックによるデータ入力も定着している。引き続き、情報の一元化により、効率的、円滑な業務遂行を図る。

5. 感染症防止対策の徹底

インフル・コロナ感染症から入所者を守るため、利用者、職員、家族、外部関係者等に対する基本的な感染対策を徹底し支援に努めた。

・コロナ感染について・・・

昨年7月末より、8月16日迄の期間中に、7名の入所者がコロナウイルスに感染。4名の入所者様が、感染発症後に血圧や意識レベルの低下により入院。また、3名の方は入院後、経口からの食事摂取が厳しく、医師より回復の見込みが難しいとの判断から施設復帰に至らず退所となった。5類以降も、施設独自の感染レベルに応じて対策を講じている。施設レベルが低い時期においては、外出の実施や面会方法も居室にて対応するなど緩和を行った。

・疥癬について・・・

昨年11月1日、参番街の入所者：男性2名が皮膚科紹介受診の結果、疥癬の確定診断を受けた。参番街入居者7名も同様、酷い掻痒感と湿疹を伴う症状が見受けられた。かかりつけ医から疥癬疑いによる診断により、飲み薬と軟膏処方が開始。また、臨時感染委員会を開催。その日から感染対策を実施。約一ヶ月の期間、感染対応に追われた。※感染経路は不明。同年8月、ショートご利用者1名の方が、疥癬の確定診断を受けていた。同年9月時点では、参番街入所者に掻痒感を伴う症状は確認されていた。皮膚状態については、ドクターメイトの皮膚科医へオンラインにより画像を送り相談。オンライン上での画像判断によるやり取りを頼りにしていた結果が、しっかりした診断に結びつかなかったことが処置対応の遅れを招いた要因の一つと考える。今回の大きな反省点であった。

6. 健康維持と医療機関との連携

早期対応に向けて、協力医療機関と連携に努めた。また、むかえ歯科医の協力により、口腔衛生管理における研修会の開催や介護職員への技術的助言及び指導を仰ぎ、歯周疾患や気道感染を予防する質の高い、口腔ケアの提供に努めた。口から食べる喜びを続けるために、リスクマネジメントの視点を持ち、適切な支援を行って行く必要がある。

7. 権利擁護・虐待防止の取り組み

年間目標である身体拘束はゼロ。委員会を中心に身体拘束の周知活動を実施。アンケートの回答から職員への意識付けはできている。スピーチロックについては、勉強会やアンケート回収により理解状況を確認しているが、結果が伴ってなく、未だ理解ができていない職員もいる。アンケート実施継続は勿論、事例や実技を通して、入所者への正しい言葉かけについての理解が必要と思われる。引き続き、年間目標に対する評価及び反省を通じて、定期的に周知していく。

8. ヒヤリハット、事故防止の取り組み

アクシデント件数は、転倒（14件）、打撲（1件）、剥離（4件）、外傷（3件）、誤嚥（1件）、異食（1件）、他（2件）の集計結果であった。ヒヤリハットによる危険性を収集し、事前に対策を講じるように努めてはいるが、具体的な対策に至っていない場合もある。介護現場で起きる事故について、共通して言えることは「ご利用者のアセスメント不足」がある。事故予防対策は、入所者の豊かな生活を保ちつつ、事故リスクを下げるものでなければならない。そのためには、利用者さんのことを幅広くアセスメントしておく必要がある。今後、より高い事故予防意識を施設全体の共通認識をもって対応していく必要がある。

9. 未来につなぐふるさと応援事業

農福連携事業も6年目を迎えた。今回も、玉名市にある農園からの指導協力と、200株の苗を提供いただいた。9月末に定植作業を実施、2月末迄の期間中、入所者とイチゴの栽培に取り組んだ。今回も作業を通じて、楽しみを得る機会や心身の変化があることが確認できた。今年度は建物からビニールハウスへの経路を改善したことで、ハウスへ行く機会が増えた。回数が増えることで、成長過程を楽しみやすく足を運ぶ動機付けになったのではないかと考える。また、短期間に繰り返す出来事は定着されやすく、記憶の想起もしやすくなる。認知機能の向上が生活意欲に大きく関わっており、日常生活と異なる刺激を得ることが良い結果に結びつくと考えられる。役割を担ってもらうことは、自分自身と向き合い他者との交流方法を見つける機会にもなるのではないかとと思われる。今回の良かった点、反省点を踏まえ、役割活動や楽しみを獲得し、生きがい作りやリハビリの機会となるよう取り組みを継続していきたい。2月末で事業は一旦終了したが、4月中旬までは収穫と試食を楽しんでいただいた。

※今回、熊本県高齢者支援課から依頼を受け、当施設での農福連携の取り組み事例として、県のホームページに掲載いただいた。

【今後の対応について】

引き続き、感染症対策については、安全・安心に過ごして頂けるよう感染拡大防止に努めて

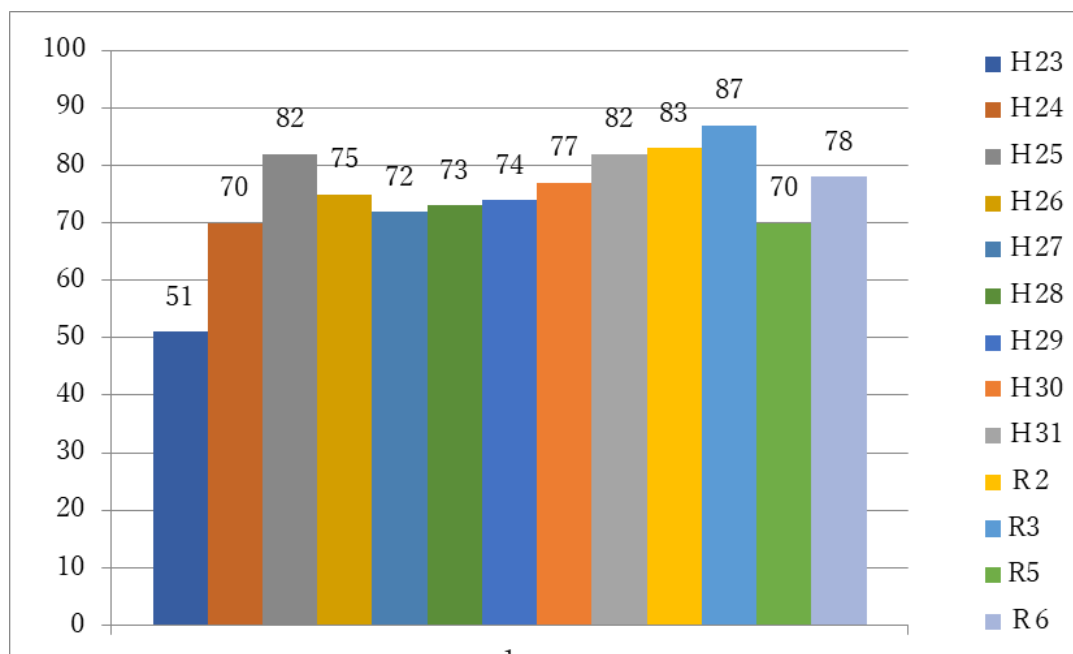
いく。また、離職者を減らし介護職の定着を踏むためにも働きやすい環境作りや、職員一人ひとりが責任とやりがいを持ち、成長できるシステムの構築が必要。入居者の高齢化や重度化に伴い、ケアに要する時間も増えており忍耐力が求められる。また、介護職の人員不足を補うための環境整備も必要である。引き続き、入居者一人一人がその人らしい生活を続けられるための施設作りを目指していきたい。

● 短期入所生活介護

令和6年度（ショートステイ）利用状況（前年度比較）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(令和5年度) 延べ利用者数	26	28	24	19	23	24	28	27	27	25	27	31
(令和6年度) 延べ利用者数	30	29	24	29	28	28	28	27	30	29	26	30
(令和5年度) 一日平均利用者数	8.6	8.9	7.4	5.4	7.9	7	6.7	5.9	5.5	6.3	6.6	8
(令和6年度) 一日平均利用者数	6.8	7	7.9	7.2	6.9	8.2	7.2	7.6	8.5	8.9	8.7	8.2

平成23年度～令和6年度の（ショートステイ）稼働率



■実績に対する考察

今年度の新規利用者数は47名で昨年より4名増、延べ人数は342名で昨年より33名増。年間定期利用者数は29名と昨年より5名減。

収入面では、4月より、新設の「生産性向上推進体制加算」（10円/月）の算定を開始。年間平均稼働率は昨年より8%増の78%と増。今年度は、8月にコロナ感染症が流行し、ご利用者3名の施設内感染が疑われ、一時的に受け入れを調整。昨年と比較すると、調整した日数も少なく、新規の相談も増え稼働率アップに繋がった。

■事業計画に対する結果と考察

○安全・安心な生活の支援

- ・行政への事故報告は1件（施設駐車場までの離設）。緊急事故防止委員会を開催した。離設リスクが高い方を定期的に受け入れており、環境とケアの見直し、勉強会を開催し再発防止に努めた。また、転倒が9件と昨年度より6件多く発生。都度対策検討実施した。
- ・導入した見守りカメラ（1台）を転倒リスクの高い利用者の居室に設置。設置後の転倒は防ぐことが出来た。
- ・生産性向上の取り組みとして、パソコンの機能アップにより職員の業務負担を軽減し、利用者ケアの充実へ繋がった。

○ご利用者の満足度アップ

- ・ご利用者と家族に満足度アンケートを実施。アンケートで希望が多かった外出レクを実施し喜んで頂いた。環境整備の為に物品購入については予算の関係で来年度に予定。
- ・併設ユニットと協力し、農福連携事業として、イチゴの苗植えから、受粉作業、収穫、食すまでの一連の期間を楽しんで頂いた。
- ・窓からの景色を楽しんでいただくため、中庭に季節の花を植えた。プランターの苗植えはご利用者にも手伝って頂き、リビングより色とりどりの花を楽しんで頂いた。
- ・荷物の返却忘れ入れ間違いがある為、入退居時にタブレットに写真を残し、記名の確認を徹底し改善がみられている。

○感染対策の継続

- ・7月に、家族がコロナ陽性の連絡。本人検査したところ無症状であったが陽性が判明。その後、職員、利用者、退居者に各1名の陽性確認。利用中の陽性者が家族の受け入れ難しくショートステイで看ることとなり、その間10日間の新規受け入れ中止を余儀なくされた。引き続き受入れ前の体調確認、入居後の体調変化の観察と早急な対応、対策に努め感染拡大防止に努める。
- ・6月から7月に利用された方が、退居後疥癬の診断。りゅうきんかでの感染が疑われるとの報告を受けた。他ショートステイ利用者にはその後も疥癬を疑われる方がおられなかったが、併設特養入居者に湿疹が見られており、その後疥癬の診断あり。どちらが先に感染されていたかは不明。皮膚状態の観察の徹底と、ベッドマットレスの消毒等により感染拡大に繋がらないよう努めていく。

○稼働率アップ

- ・稼働率アップの為に、居宅介護支援事業所、病院、包括支援センターへの営業を行った。また、利用状況や利用者変化の連絡をこまめに行い、リピーター獲得に繋がっている。今後も事業所、家族との連携を密に行い、信頼され満足される事業所を目指していく。

● 通所介護事業

自立支援型のデイサービスを実施しております。個別ケアを中心とし、その人らしい1日の過ごし方を自ら選択・決定する手法です。その人らしい生活が少しでも支援できるよう、また少しでも残存機能が維持できるような取り組みを行っています。

昨年度の利用者数ならびに実働状況は以下の通りです。

令和6年度（通所介護）利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
稼働日数	26	27	25	27	26	25	27	26	25	25	24	26	25.7
実利用者数	50	46	46	49	42	46	50	49	49	53	50	48	48.1
延利用者数	523	520	481	451	380	413	552	492	475	462	463	466	473.1
一日平均利用者数	20.1	19.3	19.2	16.7	14.6	16.5	20.4	18.9	19	18.4	19.2	17.9	18.3

令和5年度（通所介護）利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
稼働日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	25.8
実利用者数	44	41	43	48	48	47	46	47	50	49	50	48	46.7
延利用者数	400	433	425	465	495	496	443	455	501	470	484	495	424.7
一日平均利用者数	16	16	16.3	17.8	18.3	19	17	17.5	19.2	19.5	19.3	19	17.9

令和6年度	4月	¥5,529,946
	5月	¥5,109,594
	6月	¥5,507,938
	7月	¥5,333,170
	8月	¥5,025,853
	9月	¥5,218,770
	10月	¥5,949,519
	11月	¥6,138,232
	12月	¥7,141,678
	1月	¥4,583,387
	2月	¥4,255,154
	3月	¥4,282,375
	計	¥5,339,635

令和5年度	4月	¥3,997,556
	5月	¥4,148,269
	6月	¥4,168,640
	7月	¥4,373,334
	8月	¥4,734,473
	9月	¥4,877,873
	10月	¥4,373,420
	11月	¥4,520,596
	12月	¥4,871,802
	1月	¥4,658,781
	2月	¥4,762,329
	3月	¥4,888,138
	計	¥54,739,211

令和4年度	4月	¥3,916,118
	5月	¥4,503,970
	6月	¥4,603,045
	7月	¥4,408,934
	8月	¥4,205,171
	9月	¥3,870,105
	10月	¥4,214,070
	11月	¥3,637,949
	12月	¥3,724,394
	1月	¥3,805,933
	2月	¥3,611,817
	3月	¥4,085,000
	計	¥48,586,506

■実績に対する考察

令和6年度の新規ご利用者は令和5年度と比較し、月平均で-0.09人減の1.66名の新規ご利用者様を獲得となるが、実利用者数は月1.4人増で一日平均利用者数も0.4人増の結果となる。

ご利用者の新規獲得は前年度と比較し微減も、実利用者数・一日平均利用者数は微増に転じた。

しかし、収益は減少となる。

ご利用者・ご家族の新型コロナウイルス感染症罹患は大幅に減少したが、近隣事業所でクラスターが発生する等利用控えに繋がり、利用が大きく減少した月もあった。

また、職員の離職に伴い、日常的に取得していた加算が算定できず、収益減の結果につながった。

■事業計画に対する結果と考察

職員の定着、安定した加算の取得について、専門職の離職により安定的な加算取得には至らず減収となる、新たな職員の確保を早急に行うことで、早期に安定した収益増を目指す。

新規利用者に対し、実利用が伸び悩んだ結果として、体調不良に伴う入院により利用日数減に至ったケース、また併設のショートステイの併用利用が増加したことにより、利用日数減につながったことも要因であり、更なる新規利用者獲得に向け働きかけを強化する。

リハビリ特化型通所事業所として、社会的自立支援アウトカムスケール(SIOS)を活用した、「活動」と「参加」の目的を明確にし、社会的自立へのアプローチが図れるよう支援することを掲げていたが、アウトカムスケールに対しスタッフの理解不足もあり、令和7年度は講習会への参加を引き続き行い理解を深め、お一人お一人に合わせたサービス提供に繋がれるよう。生活に則した訓練の充実を図り、可能な限り在宅での生活が継続出来るよう支援に努める。

また、ご家族様、居宅介護支援事業所との連絡支援体制の密にし、ニーズの把握、事業所内の活動の見える化を行い、その結果として更なる新規ご利用者の獲得、利用定着率の向上、職員の定着を図り、加算の安定的取得を目指しつつ、新たな加算算定が図れるよう職員の資格取得を目指す。

新型コロナウイルスの問題に関連して、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染拡大防止について、事業所内での予防対策の徹底、ご家族及び居宅介護支援事業所との情報共有を密に行い予防に努めることで安定し継続した事業の運営に努める。

●居宅介護支援事業

令和6年度は、介護保険制度の改正があり、改訂事項を確認しながら業務遂行に努めた。

また、自らの職能の価値を高めていくことを目的に、介護支援専門員相互の連携、自己研鑽及び資質の向上に努めた。

自立支援の理念に基づいたケアマネジメント実施の為、ご利用者の心身の状況や、生活状況を勘案し、介護保険サービスだけではなく、地域の医療・障害福祉・インフォーマルサービス等、あらゆる方面からの他職種との連携で、ケアプラン調整を実施することを目標に業務を行なった。

■年間目標

- ①安定した利用者数と収益の確保
- ②質の高いケアマネジメントの実施
- ③人材育成とチームとして働く快適な職場環境づくり
- ④特定事業所加算（Ⅲ）の算定要件への取り組み
- ⑤経費削減対策
- ⑥事故防止
- ⑦感染症・自然災害対策（BCP 運用）

■実績報告

①安定した利用者数と収益の確保

今年度の利用件数の内訳としては、新規 41（前年度 38）件を獲得。

前年度より件数獲得は増加したが、目標である月平均 80 件には及ばず、77 件であった。

その背景には、ケアマネ 3 人体制による安定した受け入れが出来てはいたが、入院入所や死亡などで契約終了のケースが多かった。

今後も質の担保を図りながら信頼される事業所として、令和 7 年度も月 80 件目標に安定した収入に繋げたい。

（令和 6 年度給付管理）

○給付管理月平均数 77 件（前年度 78 件）⇒要介護のみ

○要介護者 925 件（前年度 937 件）月平均利用者数 77 件（前年度 78 件）

要支援者 306 件（前年度 243 件）月平均利用者数 25 件（前年度 20 件）

※予防委託契約している保険者はあさぎり町・多良木町

令和 6 年度 居宅 保険請求月別件数（前年度比較）

介護給付			予防給付		
	令和 5 年度	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 6 年度
4 月	67	69	4 月	20	23
5 月	70	70	5 月	23	26
6 月	74	76	6 月	21	24
7 月	79	81	7 月	22	26
8 月	79	72	8 月	20	25
9 月	81	72	9 月	19	25
10 月	83	77	10 月	17	25
11 月	84	76	11 月	19	25
12 月	81	84	12 月	20	27
1 月	84	84	1 月	20	27
2 月	77	80	2 月	22	27
3 月	78	84	3 月	20	26
合計	937	925	合計	243	306

②質の高いケアマネジメントの実施

- ・令和6年10月にケアマネ2名担当分のプラン点検があり、自立支援に資する適切なプランが出来ているかを確認し、気づきを得た。
- ・事業所内で実施している週1回のケース検討会議においては、困難事例ケースに時間を掛けて検討したことで、自分の視野を広げ、自分自身の気づきを得ることができた。
- ・地域ケア会議に参加し、個別ケースを通じて地域課題を把握することで、地域に必要な資源開発や地域づくり、さらには時期介護保険事業計画への反映などの政策形成や地域包括ケアの実現につながる意見を出すことができた。

③人材育成とチームとして働く快適な職場環境づくり

- ・新任CMへの指導・助言等行ないながら、既存のCMも業務の見直しや学び直しができるよい機会となった。
- ・時間外対応携帯転送については、毎月順番を交代することで、CMの負担軽減に繋がった。

④特定事業所加算（Ⅲ）の算定要件への取り組み

- ・主任ケアマネ2名体制だったが、人事異動にて新しく新任CMが配置となり、令和7年1月より主任1名となったが、特定事業所加算（Ⅲ）の算定要件は維持。
- ・奇数月の第三火曜日にあさぎり町居宅介護支援事業所事例検討会・連絡会を開催しており、担当居宅のケアマネジャーが事例発表し、課題発掘や情報交換を目的として、利用者支援の幅を広げられた。

⑤経費削減対策

- ・ガソリン代の節約のための外出時の経路調整や、印刷物の印刷ミスの軽減に気を付けながら業務遂行した。

⑥事故防止

- ・道路や訪問先での車両運転事故はゼロだった。
- ・給付管理・請求関係のミスが時々あり、最終確認を心がけた。
- ・インシデント・アクシデントが2件あり、内訳として、利用者家族からのCMの言葉遣いに対する苦情やサービス調整のミスに対する苦情であった。このような苦情に繋がらないよう、日々接遇面には気を付けていきたい。

⑦感染症・自然災害対策（BCP運用）

- ・法人全体で実施している災害対策訓練に参加し、災害発生時の対応を把握した。
- ・感染症対策（手洗い・検温・健康チェック）を行ない、安全に事業運営実施した。
- ・ハザードマップで土砂災害警戒区域の確認と、独居世帯の緊急避難先と連絡先の再確認を行なった。

■研修計画について

- ・昨年度の研修目標達成状況を適宜評価し、改善措置も行なった。今年度もスキルアップに向け、各々が計画策定を実施しており、各自責任をもって業務遂行し、加算算定事業所として質の高いケアマネジメントが出来るように努めていく。

■居宅としての活動・取り組み・地域との関わりについて

・令和7年6月、7月にあさぎり町内居宅介護支援事業所が2か所休止となり、町内の居宅CMも減ってしまい、町内の新規の要介護認定者の居宅依頼が増えている。対策として、あさぎり包括より、委託分の要支援1・2の方を包括へ戻し、要介護の方を居宅で多く担当できるようにと、配慮頂いている。現在月1~2件のペースで返還している。

町内他居宅もひっ迫した状態であり、今後町内居宅CMを増やす対策をしなければ、ケアマネ難民が出てくる可能性もあり、町もCM受講試験や更新研修費用の助成を打ち出してはいるが私達CMも後続の育成も同時に行なうべきと考えている。

■今後について

○ケアプランデータ連携システム導入について

・ケアプランデータ連携システムとは、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間での効率的な情報共有を目的としたシステムであり、導入することで、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間で毎月やりとりされる居宅サービス計画書やサービス利用票などのケアプランデータを、デジタル形式で安全にやり取りすることが可能。これにより、従来の手書きや印刷された書類をFAXで送る手間が省かれ、業務の効率化が図られる。6月中の導入予定している。

●配食サービス事業

あさぎり町地域支援事業として要介護・要支援・二次予防の在宅高齢者に対し、食事提供及び安否確認を目的とし、上地区及び岡原地区を担当にサービス提供を実施しました。

令和6年度の実績は以下のとおりです。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	13	13	13	12	10	8	8	7	8	9	9	8	118
延べ食数	214	232	217	222	176	162	162	157	152	157	120	139	2110

令和5年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	11	11	12	13	14	15	13	13	13	10	9	10	144
延べ食数	211	186	190	246	275	254	236	233	182	133	149	165	2460

令和4年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	16	16	15	16	16	15	12	12	11	10	10	11	160
延べ食数	275	304	288	311	265	202	211	199	200	194	174	209	2832

令和3年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	18	17	17	19	18	18	17	15	16	16	15	16	202
延べ食数	260	284	283	286	288	288	271	232	228	231	231	275	3157

令和2年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	14	13	13	13	15	15	15	14	15	15	15	15	172
延べ食数	238	229	222	221	234	232	235	214	239	228	216	234	2742

平成31年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	16	16	17	17	17	17	17	18	18	15	15	14	197
延べ食数	275	287	290	301	275	269	265	259	257	244	236	250	3208